

モーツァルト室内管弦楽団 第115回定期演奏会

Mozart-Kammerorchester / 115. Regulärkonzert

〈モーツァルト生誕250年記念特別企画／オペラシリーズ第7回〉

《イドメネオ》

2006年1月9日(月・祝) 午後3時 ■ いずみホール

Montag, 9. Januar, 2006. 15:00Uhr. *Izumi Hall*, Osaka

- 主催：モーツァルト室内管弦楽団
- 協賛：いずみホール
- 協力：堺シティオペラ
- マネジメント：大阪アーティスト協会 E-mail:artists@gol.com

〒530-0054 大阪市北区南森町2-1-23-403 Tel 06-6135-0503

モーツァルト室内管弦楽団

創立35周年記念

第115回定期演奏会

モーツァルト生誕250年記念特別企画／オペラシリーズ第7回

モーツァルト：《イドメネオ》K.366

W. A. Mozart : „Idomeneo“ KV366

台本／ジャンバッティスタ・ヴァレスコ (Gianbattista Varesco)

(日本語字幕／門 良一)

(オリジナルノーカット版／演奏会形式上演／日本語字幕付き)

- | | |
|--------------|---------------------------------|
| クレタの王イドメネオ | ：畑 儀文 (テノール) |
| 王子イダマンテ | ：野間 直子 (メゾ・ソプラノ) |
| トロイの王女イリア | ：石橋 栄実 (ソプラノ) |
| アルゴスの王女エレットラ | ：津山 和代 (ソプラノ) |
| 王の腹心アルパーチェ | ：二塚 直紀 (テノール) |
| ネプチューンの大祭司 | ：松本 晃 (テノール) |
| ネプチューンの声 | ：木川田 澄 (バス) |
| 2人のクレタ人 | ：山本 真紀 (ソプラノ)
津井田 園子 (アルト) |
| 2人のトロイ人 | ：近藤 達夫 (テノール)
ピーター・フィンケ (バス) |

合唱：モーツァルト記念合唱団

合唱指揮：益子 務

管弦楽：モーツァルト室内管弦楽団

コンティヌオ・チェンバロ：田中 実子

コンサートミストレス：鷺山 かおり

指揮：門 良一

制作：益子 務、門 良一

2006年1月9日(月・祝)午後3時■いづみホール

— 午後2時30分よりプレトーク —

序 曲

【第1幕】

- レシタティーヴォ「いつ終わるのでしょう、私をおそう恐ろしい災禍は」(イリア)
No. 1 アリア「父よ、兄弟よ、さようなら」(イリア)
レシタティーヴォ「イダマンテ様だわ、どうしよう」(イリア、イダマンテ)
No. 2 アリア「私の罪ではない」(イダマンテ)
レシタティーヴォ「トロイの哀れな生き残りたちがここに」(イリア、イダマンテ)
No. 3 合唱「平和を喜べ、愛の神の勝利だ」(トロイ人とクレタ人)
レシタティーヴォ「王子様、敵をかばわれるとは」(エレットラ、イダマンテ、アルパーチェ、イリア)
No. 4 アリア「この心に感じるものはすべて」(エレットラ)
No. 5 合唱「お慈悲を！神よ！」(難破船の船員たちと地上の人々)
レシタティーヴォ「われわれはついに助かった」
No. 6 アリア「悲しげな亡霊を見るだろう」(イドメネオ)
レシタティーヴォ「あそこに不運な生贄が」(イドメネオ、イダマンテ)
No. 7 アリア「愛する父上を見だし、そして失った」(イダマンテ)
No. 8 行進曲
No. 9 合唱「ネプチューンを讃えよう」

* * *

【第2幕】

- レシタティーヴォ「わしら二人だけだ、聞いてくれ」(イドメネオ、アルパーチェ)
No.10 アリア「もしあなた様の苦しみと私の望みが」(アルパーチェ)
レシタティーヴォ「ギリシアの水平線上に太陽の神デロスが」(イリア、イドメネオ)
No.11 アリア「たとえ父を失い、祖国を、安らぎを失いまして」(イリア)
レシタティーヴォ「あの含みのある言い方は」(イドメネオ)
No.12 アリア「海の外にもわしの胸にもうひとつの海が」(イドメネオ)
レシタティーヴォ「急ぎ足で、だが嬉しそうにエレットラが来る」(イドメネオ、エレットラ)
No.13 アリア「いとしいお方、たとえ別の恋人が」(エレットラ)
No.14 行進曲「遠くから心地よい響きが」(エレットラ)
レシタティーヴォ「シドンの地よ、お前は私にとって」(エレットラ)
No.15 合唱「海は穏やかだ、さあ行こう」(アルゴスとクレタの人々、船乗りたち、エレットラ)
レシタティーヴォ「行け、王子よ」(イドメネオ、イダマンテ)
No.16 三重唱「出発の前に父上の手に口づけを」(イダマンテ、エレットラ、イドメネオ)
No.17 合唱「なんとという新たな恐怖！」
レシタティーヴォ「罪びとはこのわしだ！」(イドメネオ)
No.18 合唱「走れ、逃げろ、あの恐ろしい怪物から！」

* * *

【第3幕】

- レシタティーヴォ「親しい孤独よ、いとしいそよ風よ」(イリア)
No.19 アリア「心なごませる西風よ」(イリア)
レシタティーヴォ「あの方がおいでになる、ああ神様」(イリア、イダマンテ)
No.20 二重唱「私がこの言葉を聞いて死なないのなら」(イダマンテ、イリア)
レシタティーヴォ「ああ天よ、何たることだ！」(イドメネオ、イリア、イダマンテ、エレットラ)
No.21 四重唱「ひとりさまよい行こう」(イダマンテ、イリア、イドメネオ、エレットラ)
レシタティーヴォ「陛下、王宮の前に無数の民衆が集まり」(アルパーチェ、イリア、イドメネオ)
No.22 アリア「運命にそう定められているならば」(アルパーチェ)
No.23 レシタティーヴォ「おお陛下、周囲に目をお向けください」(大祭司、イドメネオ)
No.24 合唱「おお、恐ろしい誓いよ！」(群衆、大祭司)
No.25 行進曲
No.26 合唱付きカヴァティーナ「受けたまえ、おお、海の王よ」(イドメネオ、祭司たち)
合唱「輝かしい勝利！あなた様の栄光は永遠です！」(遠くの群衆)
レシタティーヴォ「あたりに響く勝利の歓声は何だ」(イドメネオ、アルパーチェ、イダマンテ)
No.27 アリア「いいえ、私は死を恐れない」(イダマンテ)
レシタティーヴォ「何をまだためらっておられます？」(イダマンテ、イドメネオ、大祭司、イリア、エレットラ)
No.28 神託の声「愛が勝利した」(ネプチューンの声)
レシタティーヴォ「おお、慈悲深い天よ！」(イドメネオ、イダマンテ、イリア、アルパーチェ、エレットラ)
No.29 アリア「オレストとアイアスの苦悩をこの胸に」(エレットラ)
レシタティーヴォ「皆のものよ、ここにイドメネオは」(イドメネオ)
No.30 アリア「心に平和が帰り」(イドメネオ)
No.31 合唱「降りたまえ、アモールよ」

《イドメネオ》のあらすじ

トロイ戦争に勝利したギリシア連合軍の英雄イドメネオは、母国クレタへの凱旋の途中嵐に見舞われる。イドメネオは海神ネプチューン（ポセイドン）の怒りを鎮めるため、無事帰国させてくれれば上陸して最初に出会った人間をいけにえに差し出す、と誓ったので嵐はおさまる。クレタでは留守を預かる王子イダマンテが、敵国トロイの捕虜である王女イリアとひそかに愛しあっている。アルゴスの王女エレットラもクレタに滞在しており、イリアに激しい嫉妬の炎を燃やす。故国に上陸したイドメネオが最初に出会ったのは、父の安否を気遣い捜索に来たわが子イダマンテであった。イドメネオはいけにえの誓いをなんとか逃れようとするが、ネプチューンは嵐を起こし怪獣を出現させて約束の実行を迫る。多くの民の犠牲にイドメネオはいけにえがわが子であることを告白し、イダマンテも真相を知って潔く死に赴こうとする。父の剣がその子の上に振り下ろされようとした瞬間、イリアが飛び出して身代わりを申し出る。その時ネプチューンの神託の声が響き、「愛が勝利した。イドメネオは退位し、イダマンテが王となりイリアが王妃となるがよい」と宣告する。

《イドメネオ》の成立

このオペラは1780年の秋にミュンヘン宮廷より、翌年1月の謝肉祭用の出し物として作曲を依頼されたものである。モーツァルトは前年にあしかけ3年にわたったマンハイム・パリ旅行から帰国し、故郷ザルツブルクに滞在（最後の）していた。依頼主のバイエルン選帝侯カール・テオドールは1778年までプファルツ選帝侯としてマンハイムにおり、当地を旅行中だったモーツァルトは侯に謁見し、御前演奏もしている。侯は大の芸術愛好家で、またヴォルテールを招いたりしたフランス好きでもあって、パリのオーケストラを模した宮廷楽団を持っており、それは当時ヨーロッパ最高といわれた。モーツァルトは楽団員（「マンハイム楽派」と呼ばれた）との交流によって大きな刺激を受けている。

オペラの題材は宮廷から「イドメネオ」が指定され、台本作者はモーツァルトの推薦によってザルツブルクの宮廷付イタリア人神父ジャンバッティスタ・ヴァレスコに決まる。ヴァレスコは18世紀初めのフランスの悲劇オペラ「イドメネー」をもとにし

て、これを謝肉祭にふさわしいハッピーエンドに改作した。1780年の11月にはモーツァルトはミュンヘンに移り、歌手たちの能力を見ながら作曲を進めていく。作曲の過程でモーツァルトは頻繁に台本の変更をザルツブルクの父親を経てヴァレスコに依頼するが、この折の多数の手紙がモーツァルトのオペラ哲学や父親との意見交換などを含んだ貴重な資料となっている。1781年1月29日、モーツァルト25歳の誕生日の翌々に完成されたオペラの初演が行われた。選帝侯は絶賛したと伝えられるが、その後3回ほどの上演があったのみで、以後モーツァルトの生存中の公式上演はないのである。モーツァルト自身はこのオペラを自己最高の作品と見なして以後も上演の機会を窺っていたが、5年後の1786年3月、ウィーンのある貴族の館で私的な上演が1回行われたのみであった。モーツァルトの死後、多くの人々がこのオペラの上演に関心を示したが（この中にはリヒアルト・シュトラウスやエルマノ・ヴォルフフェラーリによる改作上演もある）、《イドメネオ》は歌劇場のレパートリーとして定着することはなかったのである。

《イドメネオ》の特徴

このオペラはまず、イタリア語テキストによるオペラ・セリア（厳粛なオペラとも正歌劇とも訳される）である。オペラ・セリアというのは題材をギリシア・ローマ神話や聖書に依っており、神の尊さや主人公の徳を称える内容のオペラである。主要な役にカストラート（男声ソプラノ）があてられることが多く、そのせいもあってモーツァルトの時代にはかなり廃れてきていた。《イドメネオ》は「オペラ・セリアの最後の、最高の傑作」といわれている（このオペラのイダマンテの役は元来カストラート用である）。

さらにこのオペラは、当時パリで流行していたフランス風グランド・オペラのスタイルも有している。これはフランス好みの依頼主の意向もあったのであろう。その特徴は、オペラを構成している各ナンバー（アリアや重唱などの曲）が完全終止せずにつながっていること、合唱や重唱が重要であること、劇中にバレエが挿入されることなどである。この各ナンバーの連続は、聴衆の拍手やブラボーを拒絶するけれども、ドラマの進行上は望ましいといえる。《イドメネオ》のアリアのあとに合唱が続いたりするところは、まるで映画の場面転換を見るような劇

的効果がある。合唱ナンバーは8曲もあり、このオペラの主人公は群衆であるともいえる。バレエ用には《イドメネオのためのバレエ音楽》K.367が作曲されている。

前述のように、モーツァルトは台本の変更を作者のヴァレスコに再三要求している。「長すぎる」というのがその主な理由である。最後は作者に容れられないとみて、完璧に作曲されたアリアやレシタティーヴォを初演直前に無断でカットしているのである。作曲者自身によるこのカットは当時は初演の歌手たちに惜しまれ、今日ではそのうちのいくつかは復活されることが多い(第3幕のイダマンテ、エレットラ、イドメネオの各アリアなど)。さらに上述した1786年のウィーンでの再演の際に、イダマンテ役がカストラートからテノールに変更され、それにしたがってアリアや二重唱が新たに作曲されたという事情がある。つまり作曲者自身に起因するこのオペラの異なるヴァージョンが存在するのである。どれを選ぶかは演奏者によって今日もさまざまであり、《イドメネオ》のスタンダード・ヴァージョンはまだ確立されていないといえる。

《イドメネオ》におけるモーツァルトの再発見

初演後、不幸にもなかば埋もれてしまったこのオペラではあるが、ようやく20世紀半ばになってグラインドボーン音楽祭やザルツブルク音楽祭が集中的に取り上げ、近年ではパヴァロッティやドミンゴといったスター歌手が競ってタイトル・ロールを歌うようになった。特にこの数年は《イドメネオ》の上演は世界的ブームになっているといえる。その理由のひとつは《イドメネオ》がモーツァルトのよく知られたオペラである《フィガロの結婚》や《魔笛》とは全く違うオペラであること、そしてそれにもかかわらずそれらのオペラの諸要素がほとんど全部《イドメネオ》にあるということであるだろう。原典を失念したが、「モーツァルトの他のオペラはすべて《イドメネオ》からの引用に過ぎない」ということばはいささか誇張があるとしても本質を言い得ている。

しかしもっと端的に言って、このオペラの音楽のなんという新しさ、なんという豊かさであろうか。他の作品にこれほど多様で、劇的なものがあるだろうか。《イドメネオ》を聴けば「宮廷社会の」、「貴族趣味の」、「美しく愛らしい」などといったモーツァルト像は吹っ飛んでしまう。モーツァルトはこんな

にも男性的で壮大な音楽を書いていたのだ。また、「長い、長い」といいながらその長いテキストに完璧な音楽をつけ、それを惜しげもなく切り捨ててしまうというあり方。モーツァルトの25歳は若年などではなく最も創作エネルギーの旺盛な壮年であることを思い知らされる。つまり、モーツァルトの死後200年経って、世界はようやく《イドメネオ》を認めはじめたのである。

筆者自身は、《フィガロの結婚》や《ドン・ジョヴァンニ》に漠然とした違和感を以前から覚えていた。《イドメネオ》を知るにいたってその疑問は氷解したのである。モーツァルトは本当はオペラ・セリアを書きたかったのだ、《フィガロ》や《ドン・ジョヴァンニ》といったオペラ・ブッフアを「心ならずも」書きながらセリアの手法がどうしても顔を出してしまうのだ。伯爵の謝罪の場面や、ドン・ジョヴァンニの地獄落ちの場面の一種異様な迫力はセリアのものである。《コジ・ファン・トゥッテ》にいたっては、あの荒唐無稽極まりないドラマがセリアの手法によって人間の真実に迫る大傑作になったのである。

「オリジナル・ノーカット版」について

本日の上演では(前回、2001年のわれわれの上演と異なり)、初演時のモーツァルト自身によるカットをすべて復活することを旨としている。その理由は、「長い」という欠点はあるとしても、ヴァレスコの台本は悪くないものであること、アリアなどをカットすることで全体のバランスがこわれ、様式が整わなくなること、そしてなにより、カットされた部分がすばらしい音楽であることである。近年、《フィガロの結婚》などの有名オペラで従来カットが習慣となっていた部分が演奏される傾向がある。《イドメネオ》こそは、モーツァルト本人がなんと言おうと、作曲された全部分が演奏されるべき作品である。世の中には《レクイエム》をはじめとするモーツァルトが完成しなかった作品に補筆して演奏しようとする人たちがいる。それもいいかもしれないが、モーツァルトが完璧に書いたものはカットなどせずに演奏すべきであろう。

ただ、本日の演奏ではレシタティーヴォ・セッコ(チェンバロのみで伴奏するつなぎの部分)の一部をカットしている。オーケストラを伴う箇所はすべて演奏するが、厳密な意味では「ノーカット版」とはいえないことをお断りしておく。



門 良一 ● 指揮

Ryoichi Kado, Dirigent

1939年大阪生まれ。フルートを曾根亮一氏に、指揮法を青山政雄氏に師事。1962年京都大学理学部卒業、67年同大学院修了。70年同志とともにモーツァルト室内管弦楽団を創立、常任指揮者となり現在に至る。87年、モーツァルトのピアノ協奏曲全27曲、交響曲全74曲の連続演奏完結に対し、モーツァルト室内管弦楽団とともに第5回藤堂音楽賞を受賞。

現在、NHK大阪文化センター、同神戸文化センター「モーツァルトを聴く」講師。京都産業大学教授。



畑 儀文 ● イドメネオ、テノール

Yoshifumi Hata, Idomeneo, Tenor

大阪音楽大学及び同大学院修了。1979年小林道夫氏の伴奏でリサイタル開催。91年オランダにてマックス・ファン・エグモント氏のもとで研鑽し、毎年受難週にはエヴァンゲリストとして招かれる他、ヨーロッパ各地のリサイタルでも大きな反響を呼ぶ。また、ホルン奏者ペーター・ダム氏、イェルク・デアムス氏との度重なる共演の他、93～99年にはシューベルト歌曲全曲演奏を成し遂げ話題を集め、さらに新たなシリーズ「シューベルトティアード」を展開。大阪文化祭本賞及び奨励賞、咲くやこの花賞、神戸麗ライオンズクラブ音楽賞、大阪府民劇場奨励賞、坂井時忠音楽賞、ブルーメール音楽賞、兵庫県芸術奨励賞を受賞。日本テレマン協会ソリスト、テレマン室内合唱団指揮者、シューベルトティアード・ジャパン代表、丹波の森国際音楽祭シューベルトティアードたんば総合プロデューサー。武庫川女子大学音楽学部教授。



野間直子 ● イダマンテ、メゾ・ソプラノ

Naoko Noma, Idamante, Mezzosopran

大阪音楽大学及び同大学院修了。給費留学生として英国・王立音楽大学院オペラスクールに学ぶ。オペラではオルフェオ、ダイド、スズキ(蝶々夫人)、お母さん(シンデレラ)、ツイータ(ジャンニスキッキ)、母(領事)など常に存在感のある好演を重ね、宗教音楽ではヘンデル「メサイア」、ドヴォルザーク「スターバトマーテル」等のソリストとして、又マラーの演奏においてはヨーロッパで成功を収める。

現在、大阪音楽大学講師、関西二期会、堺シティオペラ、Vivava Opera Company会員。神戸市混声合唱団所属。



石橋栄実 ● イリア、ソプラノ

Emi Ishibashi, Iliia, Sopran

大阪音楽大学卒業、同専攻科修了。平成12年度大阪府舞台芸術奨励新人。

98年「ヘンゼルとグレーテル」のグレーテルでデビュー。その好演により、ケムニッツ市立歌劇場(ドイツ)に同役で招聘出演、同時に欧州デビューを果たす。その後も数多くのオペラに出演、いずれも好評を得る。昨年は、いずみホールオペラ「カルメル会修道女の対話」コンスタンス役、新国立劇場及びザ・カレッジ・オペラハウスにおいて「沈黙」オハル役、兵庫県立芸術文化センター公演「ヘンゼルとグレーテル」グレーテル役などを演唱。また、「戴冠ミサ」「第九」「ドイツレクイエム」「レクイエム(フォーレ)」のソリストを務める他、「NHK名曲リサイタル」に出演するなど各種演奏会で活躍。

大阪音楽大学、大阪府立夕陽丘高校音楽科非常勤講師。堺シティオペラ、クオレの会会員。

モーツァルト室内管弦楽団サロンコンサート
～クライネ・モーツァルト～
第72回例会〈モーツァルトの室内楽〉
3月13日(月)午後6時30分●大阪倶楽部4Fホール
ピアノ三重奏曲 ト長調 K.564
弦楽三重奏のためのディヴェルティメント 変ホ長調 K.563
ピアノ四重奏曲 変ホ長調 K.493
Pf: 佐々 由佳里 お話: 門 良一
モーツァルト弦楽三重奏団
Vn: 釋 伸司 Va: 佐份利祐子 Vc: 元井あづさ

モーツァルト室内管弦楽団 第116回定期演奏会
(生誕250年記念/モーツァルト全ピアノ協奏曲・主要交響曲シリーズ)12
5月20日(土)午後2時●いずみホール
〈ドン・ジョヴァンニ〉K.527 序曲
ピアノ協奏曲 第25番 ハ長調 K.503
コンサートアリア K.490、K.505
交響曲 第38番 ニ長調 K.504《ブラハ》
Pf: 阿部裕之 Sop: 野村由美
指揮: 門 良一

**津山和代 ● エレットラ, ソプラノ**

Kazuyo Tsuyama, Elettra, Soprano

大阪音楽大学音楽学部声楽科卒業、同大学専攻科修了。東京音楽大学研究科オペラコース修了。二期会オペラスタジオ修了。畑中良輔、福澤アクリヴィ、大森地塩の各氏に師事。二期会オペラスタジオ修了公演では「こうもり」のアデーレを演唱。関西二期会では「アルバート・ヘリング」でデビュー。その後オペラを中心に多彩な役柄を好演する一方で宗教曲のソロ、NHK-FM録音など幅広く活動している。チリ国際音楽コンクール第2位、二期会オペラスタジオ優秀賞。東京文化会館推薦オーディション合格。現在、同志社女子大学、堺女子短期大学各講師。関西二期会、京都フランス歌曲協会、堺シティ・オペラ各会員。

**二塚直紀 ● アルバーチェ, テノール**

Naoki Nitsuka, Arbace, Tenor

大阪芸術大学卒業。関西二期会オペラスタジオ修了。仁禮義子氏、木川田 誠氏に師事。第15回摂津音楽祭聴衆審査受賞。第32回イタリア声楽コンクールソ入選。第23回飯塚新人音楽コンクール第1位。平成16年度大阪舞台芸術新人賞受賞。「フィガロの結婚」クルツィオ役でオペラデビュー後、「ラ・ディヴィーナ」若手指揮者、「マリファ伯爵夫人」タシロ、「ボッペアの戴冠」ネローネ、「メリー・ウィドウ」カミーユ、「こうもり」アルフレード、「春琴抄」利太郎、「ジャンニ・スキッキ」リスッチョ、「ドン・ジョヴァンニ」オッターヴィオ、「ファルスタッフ」フェントン等に出演。また、ベートーヴェン「第九」、メンデルスゾーン「交響曲 第2番」、クルト・ヴァイル「ベルリン・レクイエム」、ブルックナー「テ・デウム」のソリストをつとめる。現在、関西二期会会員、びわ湖ホール声楽アンサンブル専属歌手、オペラハウス合唱団準団員、同志社大学グリークラブ・ヴォイストレーナー。

**松本 晃 ● 大祭司, テノール**

Akira Matsumoto, Gran Sacerdote, Tenor

京都市立芸術大学音楽学部声楽専修卒業。卒業時に音楽学部賞受賞。同大学音楽院音楽研究科修了。1992年イタリア声楽コンクールソミラノ部門入選。1996～1998年イタリアのクレモナに留学。クレモナ合唱団のソリストとして活躍。オペラでは、「魔笛」タミーノ、「カルメン」ホセ、「コシ・ファン・トゥッテ」フェランド、「ウインザーの陽気な女房たち」フェントン、「マルタ」ライオネル、「ジプシー男爵」パリンカイ、「ヘンゼルとグレーテル」魔女等に出演。また、コンサート歌手としても「第九」をはじめ、バッハ「マニフィカート」、ヘンデル「メサイア」、ドヴォルザーク「ミサ」など、宗教曲のソリストとして出演。原田研一、蔵田裕行、森 明彦、MASAKO TANAKA PROTTEIの各氏に師事。現在、大阪音楽大学ザ・カレッジ・オペラハウス合唱団、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール専属声楽アンサンブルに所属。関西二期会準会員。

**木川田 澄 ● ネプチューンの声, バス**

Kiyoshi Kikawada, La Voce, Bass

東京芸術大学及び同大学院修了。文化庁オペラ研修所第一期生修了。毎日音楽コンクール入選。文化庁在外研修員として独シュトゥットガルト音楽大学で研修。数々のコンサートでソリストとして活躍すると共に、オペラ経験も豊富で主要オペラで好演している。特に、ワーグナー作品(さまよえるオランダ人、タンホイザー、ラインの黄金、マイスタージンガー、バルジファル等)に意欲的に取り組み、2000年には邦人による33年ぶりの関西二期会公演「バルジファル」グルネマンツ役では各誌で絶賛された。また、昨年('05)5月に「タンホイザー」(関西二期会)に出演し、更に6月は同演目での韓国(ソウル)公演でも好評を得た。11月には東京シティ・フィルのオーケストラ・オペラ「バルジファル」公演(日生劇場)でも好演している。一方、後進の指導にも情熱を注ぎ有望な声楽家を送り出している。日本ワーグナー協会、関西二期会の各会員。滋賀大学教授。

**速報!**

ファンの待望久しかったモーツァルト室内管弦楽団初のCDが発売されました。

モーツァルト：『救われたベトウーリア』 K.118

2003年1月19日いずみホールでの第105回定期演奏会のライヴ録音版
2枚組 ¥4,000

お問合せ 後援会事務局 (大阪アーティスト協会) ☎06-6135-0503

※本日ロビー売店で取扱っています。この機会に是非お買求め下さい。



モーツァルト室内管弦楽団 Mozart - Kammerorchester

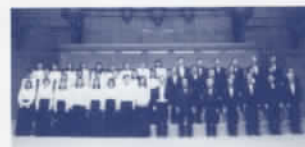
1970年に指揮者 門 良一によって設立され、35年間一貫して30数名のメンバー構成を維持するわが国では数少ない本格的室内オーケストラである。レパートリーはモーツァルト、ハイドンを中心とした古典派からバロック、前期ロマン派に及び、最近ではフランス近代の作品にも手を伸ばしている。モーツァルトに関しては交響曲と協奏曲の全曲を演奏した

日本唯一のオーケストラであり、創立当初から新モーツァルト全集に準拠した楽譜を使用していることは注目に値する。91年のモーツァルト没後200年に際しては2年にわたり記念シリーズを催し、なかでもモーツァルトの予約演奏会プログラムを完全に再現した日本初の企画は大いに話題を呼んだ。演奏スタイルは中規模編成の特色をフルに生かしたもので、的確なテンポ、明快なリズム、清澄なサウンドは定評のあるところである。関西一円で演奏活動を展開するなかで90年からは大阪いずみホールを本拠として定期演奏会を、また隔年毎に東京定期演奏会を行い既に16回を数えている。海外では88年にはドイツ民主共和国文化省の招聘による旧東独国内への演奏旅行を成功させている。内外の著名アーティストと数多く協演しており、なかでもマリア・ジョアオ・ピリス(85、87年)、シプリアン・カツァリス(93、94年)、ペーター・ダム(83、86、88、98、00年)、ウィーンフィル木管アンサンブル(86年)、ライナー・キュッヒル(90年)らとの名協演はいまも語り草となっている。91年に姉妹団体、モーツァルト記念合唱団を誕生させ宗教曲などで活発に協演するほか、93年には堺シティオペラとの協力による〈モーツァルト・オペラシリーズ〉を開始し、いずれも好評をもって迎えられている。

モーツァルト室内管弦楽団／出演メンバー

コンサートミストレス ● 鷺山かおり

第1ヴァイオリン	鷺山かおり	三瀬麻起子	コントラバス	佐々田ゆかり	ホルン	佐藤明美
	青野久美子	北村奈美		大島明子		垣本奈緒子
	中川衛子	高橋麻里		西出昌弘		洪井満
	谷口朋子	道幸明美	フルート	大江浩志		蕭生絢子
	稲庭真理子	高野ちか子		友安由香	トランペット	大西由起
	大西秀朋	上野亮子	オーボエ	伊賀上文子		森下智穂
	森住憲一	土井茉莉		中江暁子	トロンボーン	鈴木智佳
	村井紘子	元井あづさ	クラリネット	和田尚裕		戸室綾佳
第2ヴァイオリン	本多智子	三木恵理		村西俊之		今田孝一
	清水めぐみ	柳瀬史佳	ファゴット	佐伯利之	ティンパニ	福井鈴
	川島多美子	岡尾有紀		横井晴子	チェンバロ	田中実子



モーツァルト記念合唱団 (合唱指揮 ● 益子 務)

「本番のステージで柔軟に音楽をすることのできるプロフェッショナルなコーラスがほしい」という、モーツァルト室内管弦楽団の要望を受け、特別に編成された合唱団。女声は堺シティオペラの選抜メンバー(若手プロ)を中心に、男声は合唱王国関西の著名合唱団の指揮者、パートリーダークラスに参加を要請、1991年7月末に発足し、益子 務氏の指揮のもとに練習を

開始した。同年12月モーツァルト室内管弦楽団のモーツァルト没後200年記念第48回定期演奏会で「レクイエム」を協演、それ以後ミサ、オラトリオ、オペラなどで年2-3回協演し、なかでも92年のベルリオーズ「キリストの幼時」(関西初演、以後93、94、96年と続演)、95年のモーツァルト「ハ短調大ミサ」、99年のハイドン「天地創造」、ヘンデル「メサイア」などは特に好評を得た。93年9月には初の単独自主公演として、ジャニーヌ・ワグナー氏を客演指揮者に迎えて「ロジェ・ワグナー・メモリアルコンサート」を開催し、大好評を得た。98年8月にはベルギー・フランドル政府の招きにより文化交流使節としてベルギー国内で4回の演奏会を行い、大成功を収めた。創立10周年記念CD「ロッシェニ：ミサ・ソレレレ」リリース。2000年5月第2回ベルギー演奏旅行を行う。

モーツァルト記念合唱団／出演メンバー

ソプラノ	石本由紀子	川森有希子	関 夏希	銭田美幸	滝川裕美子	中田佳江
	中村あゆみ	松田美奈子	御池あゆみ	森内美佳子	山本真紀	
アルト	以倉安希子	牛田るり子	大矢喜久子	金田智津子	津井田園子	中口真由美
	野々垣 圭	林 理恵	山口貢三子	和田真祐子		
テノール	大當康博	桑田明和	近藤達夫	陶山祐嗣	辻 幸二郎	豊田千之
	藤本寛志	前川 裕	吉田 均	和田暁夫		
バス	小 高 博	中口悦史	二階堂哲雄	野村 透	長谷川良隆	林 龍太郎
	ピーター・フィンケ	藤 卷 恵	米岡 実	渡 邊 守		
練習ピアノ	田中実子					

字幕オペレーター／関根 優子

門 良一 指揮・モーツァルト室内管弦楽団
モーツァルト生誕250年記念シリーズ

(○つき数字は「モーツァルト全ピアノ協奏曲・主要交響曲シリーズ」の通し番号)

2002年

- 11月30日 第63回定期サロンコンサート ①
ピアノ協奏曲 第8番 ハ長調 K.246
ピアノ協奏曲 第11番 ヘ長調 K.413

2003年

- 1月19日 第105回定期演奏会〈生誕250年記念特別企画〉
宗教劇《救われたベトゥーリア》K.118 (関西初演)

- 5月31日 第106回定期演奏会 ②
交響曲 第29番 イ長調 K.201
2台のピアノのための協奏曲 ヘ長調 K.242
2台のピアノのための協奏曲 変ホ長調 K.365
交響曲 第25番 ト短調 K.183

- 7月29日 第65回定期サロンコンサート ③
ピアノ協奏曲 第6番 変ロ長調 K.238
ピアノ協奏曲 第9番 変ホ長調 K.271《ジュノム》

- 9月23日 第107回定期演奏会 ④
〈生誕250年記念特別企画／1783年3月23日ウィーン・ブルク劇場・豪華モーツァルト・コンサートの完全再現〉
交響曲 第35番 ニ長調 K.385《ハフナー》
ピアノ協奏曲 第5番 ニ長調 K.175
ピアノと管弦楽のためのロンド ニ長調 K.382
ピアノ協奏曲 第13番 ハ長調 K.415
《ポストホルン・セレナーデ》K.320より第3,4楽章 ほか

- 11月15日 第66回定期サロンコンサート ⑤
ピアノと管弦楽のためのロンド イ長調 K.386
ピアノ協奏曲 第12番 イ長調 K.414

2004年

- 5月30日 第109回定期演奏会 ⑥
交響曲 第28番 ハ長調 K.200
ピアノ協奏曲 第18番 変ロ長調 K.456
ピアノ協奏曲 第19番 ヘ長調 K.459
交響曲 第36番 ハ長調 K.425《リンツ》

- 9月23日 第110回定期演奏会 ⑦
〈生誕250年記念特別企画／
1784年春モーツァルト・ピアノ協奏曲大爆発〉
交響曲 第32番 ト長調 K.318
ピアノ協奏曲 第14番 変ホ長調 K.449
ピアノ協奏曲 第15番 変ロ長調 K.450
ピアノ協奏曲 第16番 ニ長調 K.451
ピアノ、オーボエ、クラリネット、ホルン、ファゴットのための
五重奏曲 変ホ長調 K.452
ピアノ協奏曲 第17番 ト長調 K.453

- 12月18日 第111回定期演奏会 ⑧
交響曲 第34番 ハ長調 K.338
ピアノ協奏曲 第21番 ハ長調 K.467
大ミサ曲 ハ短調 K.427

2005年

- 5月 8日 第112回定期演奏会 ⑨
交響曲 第33番 変ロ長調 K.319
ピアノ協奏曲 第20番 ニ短調 K.466
《ポストホルン・セレナーデ》ニ長調 K.320

- 9月23日 第113回定期演奏会 ⑩
《アイネ・クライネ・ナハトムジーク》ト長調 K.525
ピアノ協奏曲 第23番 イ長調 K.488
ピアノ協奏曲 第22番 変ホ長調 K.482
交響曲 第39番 変ホ長調 K.543

- 11月23日 第114回定期演奏会 ⑪
交響曲 第31番 ニ長調 K.297《パリ》
ピアノ協奏曲 第24番 ハ短調 K.491
交響曲 第41番 ハ長調 K.551《ジュピター》

2006年

- 1月9日 第115回定期演奏会〈生誕250年記念特別企画〉
歌劇《イドメネオ》K.366
(オリジナル・ノーカット版／演奏会形式)

- 5月20日 第116回定期演奏会 ⑫
《ドン・ジョヴァンニ》K.527 序曲
ピアノ協奏曲 第25番 ハ長調 K.503
コンサートアリア K.490、K.505
交響曲 第38番 ニ長調 K.504

- 7月2日 第117回定期演奏会
〈生誕250年記念特別企画／協奏交響曲の祭り〉
2台のピアノのための協奏曲 変ホ長調 K.365
オーボエ、クラリネット、ホルン、ファゴットのための
協奏交響曲 変ホ長調 K.297b
フルートとハープのための協奏曲 ハ長調 K.299
ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲
変ホ長調 K.364

- 9月24日 第118回定期演奏会 ⑬
フリーメイソンのための葬送音楽 ハ短調 K.477
ピアノ協奏曲 第27番 変ロ長調 K.595
交響曲 第40番 ト短調 K.550

- 12月3日 第119回定期演奏会 ⑭
《魔笛》K.620 序曲
ピアノ協奏曲 第26番 ニ長調 K.537《戴冠式》
レクイエム ニ短調 K.626

《イドメネオ》の上演に際し各方面に協賛のお願いをいたしましたところ、多くの方々からご賛同を得ました。ここにご芳名を記載させていただき謹んで謝意を表します。ありがとうございました。

《イドメネオ》上演関係者一同

阿部由美子	佐藤 吉昭	伏崎 久子	松村 貴美	初山 綾子
有賀 熙雄	佐野 哲郎	松井とも子	広岡ひろみ	霸井 通真
安藤 邦洋	島村 猛	松枝 正明	北川 鈴子	村上 治水
石上 豊子	杉浦 敬久	松枝多加子	北川 尚利	梶川 嗣夫
石本三千也	杉浦 和子	三浦信一郎	近藤 達夫	桑田 圭司
今井 安男	祐野 尚子	三谷 郁子	飯塚 晴子	小寺 範生
植田 饒	田中 喬	南形 徹	畑野 峻	堀内 岳
植田 史子	多屋 貞男	村上 功	安岡 貞子	宮野 康幸
碓井 昭彦	中條 澄	村西 良彦	吉川 素三	関 歌津子
碓井みち子	得田 栄蔵	屋良巳佐治	森脇 直子	山村 哲夫
荻巢 史恭	飛田 薫	脇田 修	飯田 祐子	山本 道子
荻野 新時	豊田 紘生	和田 暁夫	渋谷 康子	木村 良子
奥田 慶子	豊田 成子	渡辺 優子	小濱 雅之	堀岡 幸次
緒林 桂子	内藤 壽一	関 満智子	吉田 皓	村上小夜子
鍛治谷 貫	内藤 芳美	山内 和子	曲田 秀男	伊藤 卓児
金盛 琢志	長井 重龜	三島 秀夫	小寺 範生	小川 雄介
金定 秀光	中川 泰幸	深山 浩	福岡 美彦	児玉 善治
金定嘉也子	中嶋 允子	渡辺 義明	(株)井上冷熱	奥野郷太郎
川島 啓助	中谷 庄八	長谷川節子	稲村 公郎	奥野 正子
川島 弘章	能田 豊	石原 潤一	銅金 巖	阪野 俊子
河野 幹雄	野村 透	伊藤 敏枝	鞆尾 洋介	津田 静代
河野奈津子	橋本 靖昭	河井 洋子	長谷 登	橋本 久子
河原 恭子	服部 盛隆	井狩 彌介	高松建設(株)	南條輝志男
菅 正徳	馬場 明和	加藤 勝己	有光 武文	山下 鉄男
神林 恒道	菱谷勝次郎	草間 美樹	植田 伊織	岸田 道子
冠 大五	平川美津子	藤野 正治	福谷 巖	東 武次郎
岸田孝之助	平田 修一	邑上治兵衛	岡田 光夫	井上 治彦
桑山 弘	平田 和子	黒田奈佳子	都筑 章	橋本太三雄
小柳 陽一	平山 昭邦	西川 保子	倉橋 鈴子	
笹川 忠士	深田 晴世	能田 くみ	和田 慎三	
佐藤 功	福岡 昭吉	古川 豊男	中島 勇二	
佐藤 茂雄	福岡 隆子	佐野 哲昭	野原 清秀	

1月5日現在
 (順不同、敬称略)

響 き あ う

建築主、設計者、施工者がハーモニーを奏で
建物と大地が美しく響きあう
オーケストラと同じように、建築もまた
様々な要素が美しく調和し初めて
素晴らしい作品となるものです



本社・大阪本店 〒532-0025 大阪市淀川区新北野1丁目2番3号 TEL.06 (6307) 8101 東京本店 〒105-0014 東京都港区芝2丁目14番5号 TEL.03 (3455) 8101
千葉支店・埼玉支店・横浜支店・名古屋支店

ホームページアドレス <http://www.takamatsu-const.co.jp/> 高松建設の会社概要をご案内しています。

株式会社 井 上 冷 熱

代表取締役 井 上 良 昭



新感覚の芳香・消臭剤！

青葉アルコール配合でリラックス気分。

COLOR FLOW

PURE

カラフロービュー

新発売

<http://www.kincho.co.jp>



ラベンダーソープの香り
ピーチの香り
ハーブの香り



会長 岡本道雄(京都大学名誉教授)
 理事 大西正文(大阪ガス株式会社相談役) 谷口安平(京都大学名誉教授)
 森井清二(関西電力株式会社 顧問) 吉野泰生(住友生命保険相互会社会長)
 (50音順)
 顧問 齋藤房江(大阪府知事) 關淳一(大阪市長)
 伊藤郁太郎(大阪市立東洋陶磁美術館長) 梅原猛(国際日本文化研究センター顧問)

法人会員 (50音順)

荒川化学工業	サントリー	大同ケミカルエンジニアリング	松下電器産業
井上冷熱	住金物産	大同生命保険	丸紅
大阪ガス	住友金属工業	高松建設	丸山サービス
大林組	住友精密工業	日本通運京都旅行支店	三井住友カード
関西電力	住友生命保険	濱田プレス工藝	ワコー
クオーク	住友倉庫	林六	*
阪野商店	ダイキン工業	福山製紙	日本セルフ

個人会員 (入会順、敬称略)

松井繁一	平川美津子	名和道紀	川島弘章	田中譲	河原恭子
深田晴世	安藤邦洋	和秀美	川島啓助	中屋貞男	原田修一
河野幹雄	橋本太三	和本次郎	坂本諄子	多佐野透	平田和子
河野奈津子	阿部由美子	菅正徳	中井武司	野村雅祥	松井とも子
福岡隆子	川泰幸子	日藤啓助	中井和子	佐野雅	得田栄蔵
梅原一哲	石上豊子	藤山助代	西森文彦	銀治谷貫	佐藤茂雄
石本三千也	村本孝幸	山本初明	岸田孝之助	今井安隆	南形昭
田村眞也	松本英二	馬場俊一	吉田由美子	玉手木宏	平山昭功
竹村治彦	市崎川忠子	阪奥森	豊田成子	鈴萩原	村上勝次郎
岸田克己	笹林桂昭	川泰明	切畑敦子	中東富志	足立宣治
梅村博也	井みち子	宮和泰	中金盛琢	四宮孝郎	東武次郎
屋良正和	井重子	和田名孝	三石武男	内藤一	竹林大史
梅田文一	桂小多	桑石光	小西信一郎	佐野廣	梅田中忠
稲垣千代子	岸田内達	伏松枝	内佐野	内田俊	田中庄八
浮田俊太郎	能森宮祐	松枝多	佐野昌	神野昌	谷部馨
荻野新弘	森宮祐	松枝多	内野昌	神野昌	田中久
三谷郁子	宮祐	松枝多	内野昌	神野昌	野哲
田中喬英	宮祐	松枝多	内野昌	神野昌	岡龍
天野康一郎	宮祐	松枝多	内野昌	神野昌	平岡
三浦信一郎	宮祐	松枝多	内野昌	神野昌	大西
水鳥敬夫	宮祐	松枝多	内野昌	神野昌	飛田
自見弘之	宮祐	松枝多	内野昌	神野昌	桐山
渡辺優子	宮祐	松枝多	内野昌	神野昌	輝彦

会費・個人会員につきましては年会費1口2万円です。

・法人会員につきましては年会費1口10万円です。

会員の特典・年間6回の自主公演にご招待致します。(1口につき個人各1枚、法人各5枚)

・ご同伴者は10%割引となります。

・関連演奏会のご案内又はご優待を致します。

・定期演奏会プログラムにご芳名を記載させていただきます。

・会報「ディヴェルティメント」をお送り致します。

(有効期間は入会時より1年間です。)

随時ご入会いただけます。